

# はーと知はーと

vol.23-24  
2011-January  
合併号



新小文字病院 病院理念「手には技術 頭には知識 患者様には愛を」

## 全グループ 共通特集 「HNVC」心臓・脳・血管センター

### 背骨の病気は手術で治す

脊椎椎治療センター長 新武雄病院 院長 西田憲記

### 30周年 院長からのご挨拶

インド院内旅行



オーストラリア研修



ピリッ と辛口で刺激的な釜山旅行

### 第3回院内TQM発表大会

★ かかりつけ医お知らせ ★

Merry Christmas

Much peace, love and joy to you all in 2011.12.24

## 放射線 一問一答

### NST Nutrition Support Team

サポートチームの紹介

医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士  
作業療法士・ソーシャルワーカー



第9回 社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 院長 甲斐秀信

撮影：小埜 隆広

PRESTIGE

OF SHIN-KOMONJI HOSPITAL

# 新小文字病院開院30周年を迎えて

院長 甲斐秀信

今から30年前、蒲池真澄の救急医療に対する熱い思いが北九州市小倉北区大島の地に、小文字病院という形で実を結びました。その後、志を同じくする医師や看護師、コメディカルの職員達が集い、1年365日、1日24時間、どんな時であれ、その時代の良質な医療、標準的な医療をいつでも提供できる病院にしたいという思いでこの病院を運営してきました。

まずは、『手には技術 頭には知識 患者様には愛を』という病院理念の基、これまでこの病院を牽引してこられました多くの先立ちの方々に心から敬意を表したいと思います。

医療活動というものは、まさに社会的な活動であり、人々の安心や安全の根拠になるものでなくては

なりません。

医療機関が相互に連携のネットワークを築き上げることが大切ですが、人々が安心して暮らすことのできる地域づくりの為に、医療のみの連携ではなく、福祉や教育行政、地域の経済活動といった地域ぐるみの連携が重要ではないかと思えます。

新小文字病院はこれからも、地域の幸福度が向上するための連携のネットワーク作りのために、私達に出来ることを力いっぱい果たし、貢献してまいる所存でございます。

これまでと同様、医療関係者の皆様・地域の福祉や行政、教育に関わる皆様、私どもにご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



2011年に新小文字病院は開院30周年を迎えました。そこで11月18日に新小文字病院として初めての医療連携会、19日にフットサル大会、20日に第2回新小文字健康フェスタといった3つの30周年記念行事を開催しました。

医療連携会は300名を越える医療機関の皆様に参加頂き当院スタッフとの交流の場を設けられました。フットサル大会は雨天中止が危ぶまれましたが無事に開催。健康フェスタには今年も2000名を越える方にお越し頂きご好評を頂きました。

# TQMとは Total Quality Management (トータル・クオリティ・マネージメント)



直訳すると、総合的品質管理です。病院として、各部署や部門ごとに問題を洗い出し、考え、改善し、それを実現することで、「患者サービスの向上・医療の質の向上・経費節減など」の成果へとつなげていく活動のことです。新小文字病院では、チームワークを大切にしながら職員全員で取り組むことを目標としています。



## 目的

質の高い医療、サービスを提供する。  
患者様の要求にこたえて、患者様の満足感を作り出す。  
病院の体質を改善し、発展に寄与する。  
人間性、創造性を重視し、いきがいのある職場を作る。

## 第3回院内TQM発表大会 ～ 結果発表 ～



**金 賞 ◆ 快適に過ごしていただける待合室作り**  
**サークル名 チームボディメンテナンス 健診室**  
まさか金賞をいただけるとは思っていなかったので、驚きと嬉しさでいっぱいです。活動前にしっかり準備を行い、スタッフ全員で取り組んだことが、このような結果に結びついたと思います。来年度もスタッフ一丸、連覇を目指して頑張ります。



**銀 賞 ◆ 外来で行う入院案内の説明時間の短縮を目指す**  
**サークル名 SKB26 クラーク**  
日々、多数の患者さまが受診する脊髄外来で少しでも待ち時間を減らしたいという思いで今回の活動に取り組みました。パワーポイント作成など苦労した点もありましたが、大幅な待ち時間短縮が実現でき、チャレンジして良かったと思いました。



**銅 賞 ◆ ひと目でわかる患者情報の共有化を目指して!**  
**サークル名 まるものおきて**  
TQM活動の中で院内以外の交流を持つ機会ができ、また、患者様の目線で考えることができました。スタッフと協力する中で絆も深まり良い経験となりました。ありがとうございました。



**院長賞 ◆ 伝達ミス・漏れなくそう**  
**サークル名 検査科自衛隊**  
狭い検査室内で、『聞いてない!』との声ほうれんそう(報告・連絡・相談)を徹底し、伝達漏れゼロへをテーマに1年間活動しました。スタッフ間の連携・意識も向上し、未だ活動中!!



4階 THE☆SMILE  
SPDのシール紛失枚数  
激減を目指す



5階 郭女時代  
患者様の1日のスケジュール



6階 SPD38  
SPDシールの管理を徹底し、  
紛失を減らす。



7階 ハローベストフレンズ☆  
術創部の清拭方法の改善



8階 team★熱愛  
入院時オリエンテーションの充実



ICU 幸代 BAR  
清拭車を撤去しICU内がきれい  
になるBBがやりやすくなる



IT企画室 パソコン科  
利用者のために迅速な対応  
作業の軽減を目指す。



臨床工学科「足揉み癒し隊」  
フットポンプの中央管理化



手術室 K-OPE  
局所麻酔における患者様の  
安全・安心を求めて



インフォメーション「チェンジ!」  
外来担当医の休診案内ボードの設置



リハ科 申し送り隊  
申し送り内容の書式化  
患者様基本情報を病棟で書く



栄養科 新可能三姉妹  
安全な食事を提供するために  
～配膳ミスを防ぐ～



放射線科 待ち時艦隊短縮丸  
待ち時間の軽減



外来医事課 チーム シロ  
カルテ庫内の整理整頓



透析室 そら豆隊  
災害対策における患者指導



入院医事課 コスト漏れ防ぎ隊  
DPCの副傷病名、  
処置の入力漏れをなくそう!



薬剤科 ☆ENTの神様☆  
退院調剤の効率化  
退院患者の薬剤交付の待ち時間短縮



医療連携室 マリコデラックス  
快適な職場にしよう  
～そんな職場に憧れて～

## 《活動報告》

院内TQM大会  
事務局 小松 牧人

当院のTQM大会も今年で、第3回目を迎えることとなりました。第3回目のテーマは、「患者サービスの向上、職場環境の改善」です。各サークル、テーマに沿って活動を1年間通して行っていました。活動内容によっては、非常にうまくいったサークル、思うように改善できなかったサークルといろいろでした。しかし、大事なことは、いかにPDCAサイクルを回し続け、改善活動を継続するかだと思います。是非今回の経験を生かして、今後の日常の改善活動につなげていきたいと思います。

# かかりつけ医を持ちましょう

新小文字病院は地域のかかりつけ医の先生方と密接な連携をとっています。



## かかりつけ医とは？

かかりつけ医とは、ご自身やご家族の健康問題や病気について気軽に相談できる身近な地域の診療所や医院・クリニックのことです。

## 初期の診療は医院・診療所で、高度・専門医療は病院で行う

厚生労働省は「初期の診療は医院・診療所で、高度・専門医療は病院で行う」という医療機関の機能分担推進を掲げています。

当院では、『地域の診療所の先生との関係はどうあるべきか?』ということを検討し、これからの地域医療においては、普段の健康維持の相談は診療所の先生、すなわち『かかりつけ医の先生』が行い、専門的な検査や入院が必要な治療は病院が行うという病状に応じた役割分担が大切であると考えています。

## 日頃からちょっとした病気のとくに診てもらうかかりつけ医をお持ちですか？

専門的な検査や治療、手術、入院が必要な場合、適切な医療機関に紹介状を添えて紹介していただけます。かかりつけ医からの紹介状をご持参頂くと…。

- 病気の経過や薬の内容が良くわかるため、より適切な治療が受けられます。
  - 無駄な検査を省くこともでき、経費や時間などの負担が軽減されます。
- お近くの先生をご紹介します。

## 身近に頼りになるかかりつけ医を持てば安心です。

現在当院では、病状が安定された方につきましては、お近くの診療所や医院、クリニックの先生をご紹介します。

患者ご本人さま、ご家族さまが診療所や医院、クリニック、他病院等への紹介をご希望される場合につきましても、遠慮なく各外来の担当医、看護師にご相談ください。

## 紹介後はどうなるの？

紹介後も、かかりつけ医や地域の医療機関の先生方と緊密に連携し、患者さまの治療の継続性に責任を持って対応いたします。

病気が悪化した時、緊急時には24時間いつでも受診できる体制をとっておりますので、ご安心下さい。その際にも、かかりつけ医の紹介状をいただくと診療の流れがとてもスムーズです。

特集

福岡和白病院  
2011秋

## HNVC開設

高齢化やライフスタイルの欧米化、そして糖尿病人口の増加とともに生活習慣病としての動脈硬化性疾患が増えています。そこで、当院と同じグループの社会医療法人財団 池友会「福岡和白病院」では今秋、血管に関する病気を総合的に診療・治療する「HNVC(心臓・脳・血管センター)」を開設しました。心臓だけ、あるいは脳だけを診ていては血管に異常をきたした患者さんの他の異常を見逃しかねません。循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科がタッグを組み、心血管病全体に対応すべく、新しい体制のもとチーム医療を展開しています。

統括副院長(循環器内科)

## 齋藤 太郎先生

「血管病」は耳新しい病名ですが、心筋梗塞や狭心症、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血(動脈瘤破裂)など、全身のさまざまな臓器で起きる動脈硬化性疾患を総称して言います。診療は一般的に、心臓は循環器、脳は脳外科などそれぞれ専門の診療科で行っていますが、血管病は心臓、脳、大動脈、末梢神経に重複して起こり、長年にわたって進行する疾患という特徴があります。さらに自覚症状がないまま動脈硬化が進み、突然発作に襲われ重大症状が表れるというサイレントキラーの特性を持っています。

病変を個々の臓器だけ、またある時点だけをとらえて診療していると、別の臓器の病気や将来起きる可能性がある病気を見逃す恐れがあります。「心臓・脳・血管高度治療部」(HNVC=心臓・脳・血管センター)では、心臓を含めた血管系全体を一つの臓器としてとらえ、血管病は全身病という共通概念の基で、循環器内科、心臓血管外科、脳血管外科、血管放射線科が従来の枠を越えて総合的

に動脈病変の診察と治療を行います。さらに動脈病変は、糖尿病(高血糖)や高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなど生活習慣病、喫煙、遺伝などがリスクファクター(危険因子)として関係しており、四つの診療科が血管病のデータベースを共有し、他の臓器の血管も評価しながら、これらに対する内科的治療や健康指導にもアプローチします。

日本人の死因は、悪性新生物が最も多く、2位は心疾患、3位は脳血管疾患と続き、寝たきりになる原因としては脳血管疾患が1位です。心臓や脳に起きる虚血性の疾患は、死に至る危険を伴い、死を免れても後遺症が残ったり、再発を繰り返したりします。チーム診療により、外来のほかドクターカーや救急ヘリによる急患の対応も行い、予防を含めて血管病をトータルに診断・治療・指導し、早期リハビリとも連携して患者様のQOL(生活の質)向上、最期まで元気に暮らせる健康長寿の実現に貢献する地域医療を目指します。

NST とは Nutrition Support Team の略で栄養サポートチームといえます。当院では、2007年1月より活動を開始し、個別に臨床栄養管理が必要な患者様に対し、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士・作業療法士・ソーシャルワーカーがそれぞれの専門的な知識をもちより、栄養状態を良好に保つよう活動しています。

栄養状態が低下してしまうと、下記のような不都合が生じる可能性が高くなります。

- ・免疫低下による感染症の増加・悪化
- ・手術や外傷、褥瘡などの創傷治癒への悪影響
- ・手術後の合併症の増加や入院期間の長期化等

また、入院患者様の中には、入院時すでに、低栄養や褥瘡がある方もいらっしゃいます。

このような問題を解決するため、多職種が一丸となって活動しています。

## NST の紹介



みんなで頑張ってます!



### NST の活動

- ・週1回の NST 回診
- ・管理栄養士による栄養指導
- ・栄養スクリーニング・アセスメント
- ・月1回の院内勉強会開催

## Merry Christmas

Much peace, love and joy to you all in 2011.12.24



### 新小文字病院クリスマス会



12月24日のクリスマスイブに第3回クリスマス演奏会が行われました。

大きなクリスマスツリーのもと、ステージを組んでの演奏会でした。

入院の患者様やその御家族・御友人、はたまた地域の皆様と、多くの方にご参加いただきました。

職員有志によるハンドベルとコーラスは多くの部署から参加があり、時間の調整が難しい中、練習を重ねてきました。上手くいった人、いかなかった人、それぞれいたとは思いますが、皆満足気な顔をしていたのがとても印象的でした。

その他にチェロとピアノのアンサンブル、ギター弾き語り、ピアノ演奏も有志の方に行っていただきました。こちらも大盛況。皆様リズムに乗られてうっとりでした。下関看護リハビリテーション学校学生によるキャンドルサービスは、厳かな雰囲気で行われました。

最後に観客の皆様と一緒に合唱、そして輪唱を行いました。皆様大きな声で参加していただき感謝しております。

サンタからのプレゼントいかがでしたか?

また来年以降も楽しい演奏会にしていきたいと思っております。ありがとうございました。

リハビリテーション科 藤川 拓也

# 背骨の病気は手術で治す

西田 憲記

脊髄脊椎治療センター長  
新武雄病院 院長



当院、脊髄脊椎治療センター長・新武雄病院 院長 西田憲記先生がこの度『背骨の病気は手術で治す』というタイトルの本を出版致しました。これまでの脊髄脊椎外科の専門医として、様々な人々との出会いを通して、実体験に基づいて作成されています。西田先生は「われわれ専門医は切らずに治すことを常に心がけています。しかし、神経の病気は切らなければ取り返しのつかないことになるのも事実です。中枢神経は一度損傷すると二度と回復しません。だから少しでも早く専門医を訪ねてほしい」と述べています。当院の売店でも販売していますが、購入を検討されている方はぜひ事前に当院、脊髄脊椎外来をお尋ね下さい。



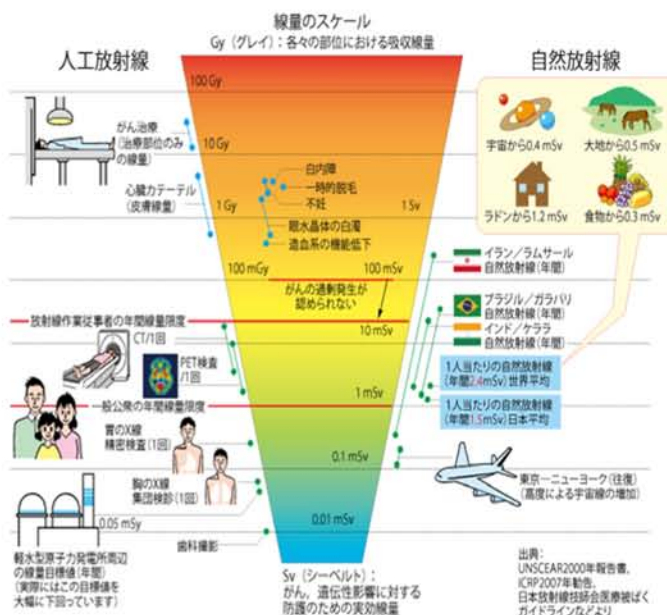
## 放射線 質問 一答

最近多くのメディアで放射線について報道されています。検査時にも様々な質問を受ける事があります。

Q：「レントゲンをこの間も撮影したが大丈夫か？」

A：レントゲンやCT等の撮影による被ばくは、特に人体に影響を及ぼす事はありません。放射線被ばくの影響は広島・長崎における原爆被ばく者の発癌データを基礎に決められています。これによると、一度に100mSv以上被ばくをすると影響が現れるとされています。誰でも一度は撮影した事のある胸のレントゲン撮影は一回で約0.05mSvの被ばくです。100mSvは、胸のレントゲン撮影を一度に2000枚撮影する被ばく量に相当し、医療現場ではそんな事はしませんよね。

放射線には病気や怪我の発見、診断や治療を行うメリットと被ばくのデメリットが相反しています。このように、当院では放射線診断が必要であると判断された場合に、無駄な被ばくを避け、必要最低限の被ばくに努めて検査を行っています。





# インド院内旅行記

医事課 秋山慶子

★ 平成 23 年 9 月 24 から 3 泊 5 日でインドへ行って参りました。



今回は主に北インド地方を中心に『首都のニューデリー』『砂漠の街ジャイプル』『タージ・マハルのあるアグラ』の 3 地域を観光させて頂きました。初めてのインド旅行とあって期待以上に不安が大きく、薬や水に加えてイレットペーパーまで持参して出発しました。まずインドに到着して感じたことは街全体が混雑していることでした。道端には犬が至るところで寝そべっており、その横を牛が通り過ぎ、建物の中からはリスが現れ、屋根には猿がいる…さらにニューデリーの駅では人までもが寝そべっていました。日本ではお目にかかれぬ貴重な光景でした。日本の約 9 倍の人口を保有するインドならではのだと思えます。



心配していた食事はどれもスパイシーで美味しく頂きました。

そしてこの旅のメインである世界遺産巡り…建造物の多くは墓でありどれも競う様に大きく目を見張る装飾が施されていました。中でも最も印象的だった建造物はタージ・マハル。1632 年から約 22 年かけて当時の王が王妃タージのために建てた全面白大理石で左右対称の美しい建造物でした。「神々と信仰の国」または「喧騒と貧困の国」と言われるインドは、街も建造物も人も含め本当に一言では表現できない深みのある国でした。



皆さんもぜひ一度はインドを体験してみても如何でしょうか？  
この度はこのような貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

🕒 I had a pleasant experience on my trip.



平成 23 年 12 月 7 日から 1 泊 2 日で韓国釜山に行かせて頂きました。

日本から高速船ビートルを利用し僅か 3 時間で到着するお隣の国「韓国」。

私は乗船前に飲酒したこともあり、二つの酔いを同時に味わい地獄の片道 3 時間を過ごさせて頂きました。私にとって初めての海外旅行…同行者は先輩 3 名…周りからは「大丈夫?」と心配されていた様ですが、予感的中の様です。釜山上陸後にチャガルチ市場にて、本場のピビンバを堪能し、先輩の奢りで食べたチヂミは格別でした。昼食後には私達池友会グループと提携している韓国のチョウンカンアン病院の見学をしました。IT に特化した病院でスタッフ全員がスマートフォンを持ち情報の共有化が出来るようです。

診療情報管理室 宮崎竜大



## ピリッ と辛口で刺激的な釜山旅行



自由時間に釜山の繁華街「南浦洞」を散策しました。クリスマスイルミネーションの点灯式が行われていたようで、日本には無い熱気がありました。繁華街にて美容大国韓国ならではのパックやクリームをお土産として購入しました。韓国焼肉は本当にマシッソヨで屋台にも寄りました。駆け足で初日を過ごし、就寝したのは深夜 1 時過ぎ…にも関わらず早朝より誰も居ないプサンタワーへ行きました。朝食を済ませた後には、先輩達に連れられ地元料理店でサムゲタンを食べました。短い旅行期間にも関わらず、ツアー参加者の荷物は両手で抱えきれない程膨らんでいました。近年、日本人を魅了している韓流アーティストの力の源を感じました。この度はこのような機会を与えて頂きありがとうございました。今度は私が先輩として、後輩を連れて行きたいと思います。



## Training in Australia

オーストラリア研修報告 リハビリテーション科 河手武

(平成 23 年 9 月 24 日～ 30 日)

平成 23 年 9 月 24 日～ 30 日の 7 日間、オーストラリア研修に行ってきました。2 日目に到着してそのまま動物園でコアラを抱いて記念撮影をしました。コアラは 1 日 20 時間寝て、写真撮影もストレスを考慮して 1 匹につき 1 回 30 分の時間制限にて出勤表が組まれているようです。ただし、もう少ししたらこれもコアラを守るために中止になるみたいなので、コアラを抱きたい方はお急ぎください。可愛いです。3 日目にキュランダとグレートバリアリーフのグリーン島の世界遺産、4 日目にプリンセス・アレクサンドリア病院 (600 床) へ研修しました。オーストラリアでは医師やセラピストが足りていなくて、医師は外国から来てもらっているという事情を抱えているようです。5 日目には日本食がどうしても恋しくなり、偶然見つけた長浜ラーメン屋で懐かしい福岡の味を堪能しました (翌日含め 2 回)。日本料理ってやっぱり美味しい!

雄大な自然や大らかな人柄に触れることの出来たオーストラリア。食事さえ整えば、海外での仕事もいかなあと思いました。



ランチタイムに新小文字病院で手づくりのパンを出張販売しています“小さなしあわせ”です。

私たち“小さなしあわせ”は平成21年に小倉北区大島の旧小文字病院を再利用した創造館クリエイティブハウス内で生まれました。

創造館は高齢者や障がいのある人達が自立した生活と仕事を営む共生の場です。当初は「創造館の入居者の皆様においしいパンを食べてもらいたいなあ」という思いから、健常職員と障がいのあるスタッフが一緒にパンを焼き始めました。入居者様から「このパンはおいしいね!焼き立てだね!」と喜ばれて大人気!そのうちに評判となり今年の春、念願叶って大島の通りに小倉バーガーとベーカリーのお店“小さなしあわせ”をオープンしました。9月にはパン生地を改良してメニューを一押し更においしくなりました。

今では病院、専門学校、県立高校、工場、漁協、スーパーの施設等に毎月1万個のパンの定期配達ができる迄になりました。

“小さなしあわせ”ではお客様の「おいしい!」笑顔が見たくて毎日一生懸命パンを作っています。お店の周りにはいつもパンのいい香りがしています。お店に入ると出張販売にはない商品がたくさん並んでいます。ぜひ“小さなしあわせ”焼き立てパンをどうぞ!皆さまのご来店をお待ちしています。



“小さなしあわせ”ではお客様の「おいしい!」笑顔が見たくて毎日一生懸命パンを作っています。

TEL 093-383-2121

北九州市小倉北区大島3丁目4-33  
営業時間 AM10:00~PM5:00  
イトインカウンター3席有り・不定休  
<http://souzoukan.net/>



診療科目のご案内

内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・外科  
呼吸器外科・整形外科・リウマチ科・形成外科・皮膚科  
麻酔科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科  
脳神経外科・脊髄脊椎外科・救急科・病理診断科

24時間・365日救急医療を提供します

治療センター	外来診療時間
ER・外傷センター	午前 9:00~11:30
脊髄脊椎治療センター	午後 2:00~5:00
脳神経センター	日曜・祝日は休診
ハートセンター	
呼吸器センター	

社会医療法人財団 池友会 **新小文字病院**

〒800-0057 北九州市門司区大里新町2-5  
TEL 093-391-1001 FAX 093-391-7001  
E-mail : [info@shinkomonji-hp.jp](mailto:info@shinkomonji-hp.jp)  
<http://www.shinkomonji-hp.jp>



◎基本方針

**高度医療** 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

**総合医療** 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一環した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

**地域医療** 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

当院は、館内禁煙とさせていただきます。喫煙者ご自身の健康のためにも、受動喫煙の害を防ぐためにも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。